

# その舞は、未来へ――

山の恵み、里の祈り、神の子の舞――  
先人たちから受け継いだ「大切なもの」は、  
そーっと、そーっと、子どもたちへと伝わっていく。  
その小さな手から紡ぎ出されるものは、  
やがて長く、切れない糸となる。  
ずっと、ずっとその未来、  
その舞が、その響きが、その魂が、  
誰かの心を震わせるとき、  
そこから、また、新たな糸が紡がれていく――。

小高い山の上にある河津原八幡神社で練習に励む河津原神楽団の団員たち。演目は「牛若丸」。同団では、代々主人公の牛若丸を舞者は髪を腰まで伸ばしている。四代目牛若丸の良玄幹基くん（りょうげん・まさき 写真右）は、小学6年生。「大人の人たちが舞台上で舞っているのを見て感動し、自分もやってみたくて練習は厳しいですが、舞ったあとにお客さんからもらえる拍手が最高です」と良玄くん。団員の一人は、「神楽には、いろんなものが詰まっています。だから、子どもたちに本当に伝えたいのは、技術だけでなく、その想いなんです」と話す。

―河津原神楽団―



第50回佐伯神楽共演大会

とき 11月3日(土)

ところ 津田小学校体育館

※入場無料

※学校内は、禁酒・禁煙

※出演団体・演目などは、決ま

り次第「佐伯神楽保存会」の

ホームページに掲載します

問合せ 佐伯神楽保存会広報部

☎090(3634)3939